

授業科目	構音障害Ⅳ（運動障害性）				
担当者	熊倉 勇美				
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

dysarthria、口腔・中咽頭がん術後の構音障害、それに関連する領域について学びます。評価法、訓練法などを case study を参考に習得しましょう。

■ 到達目標

構音障害の症状を理解し、分析と訓練のプランニング、実施が出来るようにしましょう。

■ 授業計画

- 第1回 構音障害と ST 臨床の流れ
- 第2回 dysarthria（運動障害性構音障害）とは何か
- 第3回 case study：dysarthria, 発語失行、失語症
- 第4回 case study：原因疾患と臨床分類
- 第5回 case study：原因疾患と臨床分類
- 第6回 ST の果たすべき役割：観察、検査と評価
- 第7回 包括的検査と要素的検査：その考え方と方法
- 第8回 リハビリテーション：その考え方と方法
- 第9回 リハビリテーション：その考え方と方法
- 第10回 拡大・代替コミュニケーション（AAC）、まとめ
- 第11回 器質性構音障害とは何か
- 第12回 口腔・中咽頭がんの原因と、その治療
- 第13回 case study：評価と訓練
- 第14回 case study：評価と訓練
- 第15回 補綴治療、まとめ

■ 評価方法

筆記試験（100%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義は、case study などを通じて、具体的に、また演習で体験的にも行います。確認したいことや疑問点などがあれば、いつでも積極的に発言して下さい。授業中に予習・復習に関しては、具体的に指示します。教科書は、下記のように2冊必要です。

■ 教 科 書

書 名：改訂・運動障害性構音障害

著者名：熊倉勇美 編著

出版社：建帛社

書 名：口腔・中咽頭がんのリハビリテーション：構音障害、摂食・嚥下障害

著者名：溝尻源太郎・熊倉勇美 編著

出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

■ 留意事項

無断欠席や遅刻に注意して下さい。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

構音障害に対する ST の役割を具体的、实际的に理解して下さい。